岐阜市民病院内科専門研修プログラム

目次

1. 理念・使命・特性 1
2. 募集専攻医数【整備基準 27】 2
3. 専門知識・専門技能とは 3
4. 専門知識・専門技能の習得計画 3
5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13, 14】 6
6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6, 12, 30】 6
7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】 6
8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】 7
9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11, 28】 7
10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】 8
11. 内科専攻医研修　【整備基準 16】 9
12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17, 19～22】 9
13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34, 35, 37～39】 11
14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18, 43】 11
15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】 11
16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】 12
17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】 12
18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】 13
◆岐阜市民病院内科専門研修施設群 14
研修プラン 14
表 1. 岐阜市民病院内科専門研修施設群研修施設 14
表 2. 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性 15
1) 専門研修基幹施設 18
2) 専門研修連携施設 19
3) 専門研修特別連携施設 45
別表 1（各年次到達目標） 49
◆岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会名簿 50

新専門医制度　岐阜市民病院内科専門研修プログラム

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1) 本プログラムは，岐阜県岐阜医療圏の中心的な急性期病院である岐阜市民病院を基幹施設として，岐阜県岐阜医療圏・近隣医療圏にある連携施設と協力し，内科専門研修を経て岐阜県の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され，基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として岐阜県全域を支える内科専門医の育成を行います.

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年間＋連携 1 年間）に，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します.

内科領域全般の診療能力とは，臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です．また，知識や技能に偏らずに，患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です.

使命【整備基準 2】

1) 内科専門医として，１）高い倫理観を持ち，２）最新の標準的医療を実践し，３）安全な医療を心がけ，４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います.

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得し，標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防，早期発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて，地域住民，日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います.

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います.

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います.

特性

1) 本プログラムは，岐阜県岐阜医療圏の中心的な急性期病院である岐阜市民病院を基幹施設として，岐阜県岐阜医療圏，近隣医療圏にある連携施設と協力し，内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，必要に応じた可塑性のある，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の 3 年間になります.

2) 岐阜市民病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします.

3) 基幹施設である岐阜市民病院は，岐阜県岐阜医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核であります．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

4) 専攻医 2 年修了時で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます．

5) 日本内科学会の整備基準に基づき，岐阜市民病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するため，原則，専門研修期間中に，岐阜医療圏以外の立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します．内科専門研修の内訳は，原則として岐阜市民病院で通算 2 年間，連携施設で通算 1 年間とし，連携施設での研修期間は 6 カ月単位での組み入れを可とします．しかし，岐阜医療圏以外での研修環境にも配慮し，連携施設での研修期間については内科専門領域の幅広い研修の希望や不足している症例登録や病歴要約作成にも対応しできるように，研修施設の選択，研修期間および研修診療科の選択においては，専攻医の希望を尊重しつつ，柔軟な対応ができるよう内科専門研修プログラム管理委員会で調整し決定します．

6) 基幹施設である岐阜市民病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，160 症例以上を経験し，J-OSLER に登録できます．可能な限り，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします．

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は，１）高い倫理観を持ち，２）最新の標準的医療を実践し，３）安全な医療を心がけ，４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです．内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが，それぞれの場に応じて，

1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
2) 内科系救急医療の専門医
3) 病院での総合内科（Generality）の専門医
4) 総合内科的視点を持った Subspecialist に合致した役割を果たし，地域住民，国民の信頼を獲得します．それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一でなく，その環境に応じて役割を果たすことができる，必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります．

岐阜市民病院内科専門研修施設群での研修修了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，これらいずれかの形態に合致することもあれば，同時に兼ねることも可能な人材を育成します．そして，岐阜県岐阜医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．また，希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも，本施設群での研修が果たすべき成果です．

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により，岐阜市民病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 10

名とします.
1) 岐阜市民病院内科後期研修医は現在 3 学年併せて 16 名で 1 学年 4～10 名の実績があります.
2) 岐阜市管轄公立病院として雇用人員数に一定の制限があるので，募集定員の大幅増は現実性に乏しいです.
3) 剖検体数は 2023 年度 15 体, 2024 年度 8 体, 2025 年度 15 体です.

表. 岐阜市民病院診療科別診療実績

2025 年実績	入院患者延数（人/年）	外来延患者数（人/年）
消化器内科	17,618	23,433
循環器内科	9,945	10,911
糖尿病・内分泌内科	3,526	9,534
腎臓内科	3,363	3,403
呼吸器内科	11,878	15,241
脳神経内科	1,965	10,268
血液内科	23,745	13,788
総合診療・リウマチ膠原病センター	6,004	13,163

4) 糖尿病・内分泌内科，腎臓内科，総合診療・リウマチ膠原病センター領域の入院患者は少なめですが，外来患者診療を含め，1 学年 10 名に対し十分な症例を経験可能です.
5) 13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（「岐阜市民病院内科専門研修施設群」参照）.
6) 1 学年 10 名までの専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群，120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です.
7) 専攻医 2 年目あるいは 3 年目に研修する連携施設には，高次機能・専門病院 5 施設，地域基幹病院 9 施設および地域医療密着型病院 14 施設，計 27 施設あり，専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です.
8) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群，160 症例以上の診療経験は達成可能です.

3. 専門知識・専門技能とは

1) 専門知識【整備基準 4】［「内科研修カリキュラム項目表」参照］
専門知識の範囲（分野）は，「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病および類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」で構成されます.
「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」，「病態生理」，「身体診察」，「専門的検査」，「治療」，「疾患」などを目標（到達レベル）とします.

2) 専門技能【整備基準 5】［「技術・技能評価手帳」参照］
内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します. さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります. これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません.

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標【整備基準 8～10】（P. 49　別表 1「岐阜市民病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります．そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します．

○専門研修（専攻医）１年:
- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，60 症例以上を経験し，J-OSLER にその研修内容を登録します．以下，全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます．
- 専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して J-OSLER に登録します．
- 技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医とともに行うことができます．
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います．

○専門研修（専攻医）２年:
- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患群，120 症例以上の経験をし，J-OSLER にその研修内容を登録します．
- 専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して J-OSLER への登録を終了します．
- 技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます．
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる
- 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．

○専門研修（専攻医）３年:
- 症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，J-OSLER にその研修内容を登録します．
- 専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します．
- 既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます．査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します．但し，改訂に値しない内容の場合は，その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します．
- 技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます．
- 態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります．

専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします．J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します．

岐阜市民病院内科施設群専門研修では，「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は３年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を１年単位で延長します．一方でカリキ

ュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にSubspecialty領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます.

2) 臨床現場での学習【整備基準 13】内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます．内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記１）～５）参照）．この過程によって専門医に必要な知識，技術・技能を修得します．代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します．また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習によって知識を補足します．これらを通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします.

① 内科専攻医は，担当指導医もしくはSubspecialtyの上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて，内科専門医を目指して常に研鑽します．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します.
② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科のカンファレンスを通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます.
③ 総合内科外来（初診を含む）とSubspecialty診療科外来（初診を含む）を少なくても週1回，1年以上担当医として経験を積みます.
④ 救急診療部で内科領域の救急診療の経験を積みます.
⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます.
⑥ 必要に応じて，Subspecialty診療科検査を担当します.

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】
１）内科領域の救急対応，２）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，３）標準的な医療安全や感染対策に関する事項，４）医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項，５）専攻医の指導・評価方法に関する事項，などについて，以下の方法で研鑽します.
① 定期的（毎週1回程度）に開催する各診療科での抄読会
② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2025 年度実績 5 回）
※ 内科専攻医は年に 2 回以上受講します.
③ CPC（基幹施設 2025 年度実績 6 回）
④ 研修施設群合同カンファレンス（2025 年度：開催予定）
⑤ 地域参加型のカンファレンス（市民公開講座：2025 年度実績 6 回）
⑥ JMECC 受講
※ 内科専攻医は必ず専門研修１年もしくは２年までに 1 回受講します.
⑦ 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会
など

4) 自己学習【整備基準 15】
「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類，技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに，症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した），B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューター

シミュレーションで学習した）と分類しています．（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します．
① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
② 日本内科学会雑誌にある MCQ
③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題
など

5）研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】
J-OSLER を用いて，以下を web ベースで日時を含めて記録します．
・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います．
・専攻医による逆評価を入力して記録します．
・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います．
・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します．
・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します．

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13, 14】

岐阜市民病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載した（「岐阜市民病院内科専門研修施設群」参照）．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会が把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します．

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6, 12, 30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です．この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります．
岐阜市民病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設のいずれにおいても，
① 患者から学ぶという姿勢を基本とする．
② 科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM;evidence-based medicine）．
③ 最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）．
④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う．
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く．
といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します．併せて，
① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う．
② 後輩専攻医の指導を行う．
③ メディカルスタッフを尊重し，指導を行う．
を通じて，内科専攻医としての教育活動を行います．

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

岐阜市民病院内科専門研修施設群は基幹病院，連携病院のいずれにおいても，
① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）．
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します．

② 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います.
③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います.
④ 内科学に通じる基礎研究を行います.
を通じて，科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします.
内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者２件以上行います.
なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，岐阜市民病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します.

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です．これは観察可能であることから，その習得を測定し，評価することが可能です．その中で共通・中核となる，コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です.
岐阜市民病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設のいずれにおいても指導医，Subspecialty 上級医とともに下記１）～10）について積極的に研鑽する機会を与えます．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理運営員会が把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します.
① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導
※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます.

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11, 28】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．岐阜市民病院内科専門研修施設群研修施設は岐阜県岐阜医療圏，近隣医療圏から構成されています.
岐阜市民病院は，岐阜県岐阜医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連携の中核です．一方で，地域に根ざす第一線の病院でもあり，コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます.
連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的として構成しています.
高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．地域基幹病院では，岐阜市民病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます.
地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します.

岐阜市民病院内科専門研修施設群は，岐阜県岐阜医療圏，近隣医療圏の医療機関から構成しています．岐阜県内で最も距離が離れている高山赤十字病院は，岐阜市民病院から乗用車にて，2 時間 10 分程度の移動時間であり，また県外で最も距離が離れている国立国際医療研究センター病院へは電車で 2 時間半程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低いです.

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

岐阜市民病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています.

岐阜市民病院内科施設群専門研修では，主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます.

11. 内科専攻医研修　【整備基準 16】

研修プラン

専門研修 1 年目	専門研修 2 年目	専門研修 3 年目
岐阜市民病院	連携施設	岐阜市民病院
岐阜市民病院	岐阜市民病院	連携施設
連携施設	岐阜市民病院	岐阜市民病院

※なお、6 ヵ月単位での組み入れを可とする

基幹施設である岐阜市民病院内科で，専門研修（専攻医）計 2 年間の専門研修を行います．

原則として，専攻医 1 年目あるいは 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）2 年目あるいは 3 年目の研修施設を調整し決定します．専門研修（専攻医）2 年目あるいは 3 年目の 1 年間，連携施設で研修をします（研修プラン）．なお，研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）．

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17, 19～22】

(1) 岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会の役割

・専門研修の評価は岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会が専攻医および指導医とともに密に連携して行います．

・岐阜市民病院内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します．

・3 か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による J-OSLER への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します．

・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します．

・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します．

・年に複数回（8 月と 2 月を予定，必要に応じて臨時に），専攻医自身の自己評価を行います．その結果は J-OSLER を通じて集計され，1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って，改善を促します．

・岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会は，メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月，必要に応じて臨時に）行います．担当指導医，Subspecialty 上級医に加えて，看護師長，看護師，臨床検査・放射線技師・臨床工学技士，事務員などから，接点の多い職員 5 人を指名し，評価します．評価表では社会人としての適性，医師としての適正，コミュニケーション，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します．評価は無記名方式で，岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，J-OSLER に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）．その結果は J-OSLER を通じて集計され，担当指導医から形成的にフィードバックを行います．

・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します．

(2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が岐阜市民病院内科専門研修プログラム委員会に

より決定されます.

・専攻医は web にて J-OSLER にその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.

・専攻医は，1 年目専門研修修了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群，60 症例以上の経験と登録を行うようにします．2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群，120 症例以上の経験と登録を行うようにします．3 年目専門研修修了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群，160 症例以上の経験の登録をします．それぞれの年次で登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します.

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り，J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や内科専門医管理運営委員会（仮称）からの報告などにより研修の進捗状況を把握します．専攻医は Subspecialty の上級医と面談し，専攻医が経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医と Subspecialty の上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します.

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し，知識，技能の評価を行います.

・専攻医は，専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し，J-OSLER に登録します．担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行う必要があります．専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき，専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します．これによって病歴記載能力を形成的に深化させます.

(3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します．その結果を年度ごとに岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会で検討し，統括責任者が承認します.

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

1) 担当指導医は，J-OSLER を用いて研修内容を評価し，以下ⅰ)～ⅵ)の修了を確認します.

ⅰ) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を J-OSLER に登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，登録を済ませていることが必要です（別表 1「岐阜市民病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）.

ⅱ) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

ⅲ) 所定の 2 編の学会発表または論文発表

ⅳ) JMECC 受講

ⅴ) プログラムで定める講習会受講

ⅵ) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性

2) 岐阜市民内科専門医研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 か月前に岐阜市民病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」，「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，J-OSLER を用います．なお，「岐阜市民病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「岐阜市民病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】

と別に示します.

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34, 35, 37～39】

（「岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

1）岐阜市民病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i）内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会（部会）との連携を図ります．内科専門研修プログラム管理委員会は，統括責任者（診療科部長），統括副責任者（診療科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医），事務局代表者，内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科部長）および連携施設担当委員で構成されます．また，オブザーバーとして専攻医を会議の一部に参加させる（岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会参照）．岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を，岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会内におきます．

ii）岐阜市民病院内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに内科専門研修委員会（部会）を設置します．部会長1名（指導医）は，基幹施設との連携のもと，活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，毎年 6 月と 12 月に開催する岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席します．

基幹施設，連携施設ともに，毎年 4 月 30 日までに，岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います．

① 前年度の診療実績
a） 病院病床数，b)内科病床数，c)内科診療科数，d) 1 か月あたり内科外来患者数，e)1 か月あたり内科入院患者数，f)剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数
a)前年度の専攻医の指導実績，b)今年度の指導医数/総合内科専門医数，c)今年度の専攻医数，d)次年度の専攻医受け入れ可能人数．

③ 前年度の学術活動
a） 学会発表，b)論文発表

④ 施設状況
a) 施設区分，b)指導可能領域，c)内科カンファレンス，d)他科との合同カンファレンス，e)抄読会，f)机，g)図書館，h)文献検索システム，i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，j)JMECC の開催．

⑤ Subspecialty 領域の専門医数
日本消化器病学会消化器専門医数，日本循環器学会循環器専門医数，日本内分泌学会専門医数，日本糖尿病学会専門医数，日本腎臓病学会専門医数，日本呼吸器学会呼吸器専門医数，日本血液学会血液専門医数，日本神経学会神経内科専門医数，日本アレルギー学会専門医（内科）数，日本リウマチ学会専門医数，日本感染症学会専門医数，日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18, 43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します．

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します．指導者研修（FD）の実施記録として，J-OSLER を用います．

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします．

専門研修（専攻医）1 年目及び 2 年目あるいは 3 年目は，基幹施設である岐阜市民病院の就業環境に，専門研修（専攻医）2 年目あるいは 3 年目は，連携施設の就業環境に基づき，就業します（「岐阜市民病院内科専門研修施設群」参照）．

基幹施設である岐阜市民病院の整備状況：

・研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
・岐阜市正職員または非常勤嘱託員として労務環境が保障されています.
・メンタルストレスに適切に対処する部署（岐阜市役所職員厚生課）があります.
・ハラスメント委員会が岐阜市役所に整備されています.
・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.

専門研修施設群の各研修施設の状況については，「岐阜市民病院内科専門施設群」を参照．また，総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，その内容は岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが，そこには労働時間，当直回数，給与など，労働条件についての内容が含まれ，適切に改善を図ります.

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価を J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は年に複数回行います．また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会（部会），およびプログラム管理部会が閲覧します．また集計結果に基づき，岐阜市民病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス専門研修施設の内科専門研修部会，岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します．把握した事項については，岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します.

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.

・担当指導医，施設の内科研修部会，岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，岐阜市民病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して岐阜市民病院内科専門研修プログラムを評価します.
・担当指導医，各施設の内科研修部会，岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます．状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます.

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会は，岐阜市民病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します．その評価を基に，必要に応じて岐阜市民病院内科専門研修プログラムの改良を行います.

岐阜市民病院内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します.

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，website での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します．翌年度のプログラムへの応募者は，岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会の website の岐阜市民病院医師募集要項（岐阜市民病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します．書類選考および面接を行い，岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理部会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します．
＊＊市民病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく J-OSLER にて登録を行います．

18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に J-OSLER を用いて岐阜市民病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します．これに基づき，岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理部会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます．他の内科専門研修プログラムから岐阜市民病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です．

他の領域から岐阜市民病院内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに岐阜市民病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，J-OSLER への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります．

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たしており，かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 7.75 時間，週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって，研修実績に加算します．留学期間は，原則として研修期間として認めません．

◆岐阜市民病院内科専門研修施設群

研修プラン

専門研修 1 年目	専門研修 2 年目	専門研修 3 年目
岐阜市民病院	連携施設	岐阜市民病院
岐阜市民病院	岐阜市民病院	連携施設
連携施設	岐阜市民病院	岐阜市民病院

※なお、6 ヵ月単位での組み入れを可とする

表 1. 岐阜市民病院内科専門研修施設群研修施設

	病院	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹施設	岐阜市民病院	555	229	8	37	25	15
連携施設	岐阜大学医学部附属病院	606	165	5	39	34	24
連携施設	岐阜県総合医療センター	620	223	12	27	30	2
連携施設	岐阜赤十字病院	311	103	9	4	7	1
連携施設	高山赤十字病院	375	95	5	6	6	1
連携施設	羽島市民病院	271	147	7	1	3	1
連携施設	大垣徳洲会病院	283	50	5	0	0	0
連携施設	下呂温泉病院	206	142	6	3	2	2
連携施設	長良医療センター	327	147	6	6	5	0
連携施設	中濃厚生病院	495	219	8	7	15	1
連携施設	河村病院	315	230	6	3	4	0
連携施設	美濃病院	122	122	2	1	0	0
連携施設	愛知医科大学病院	900	276	11	74	47	10
連携施設	国立国際医療研究センター病院	719	他科混合	10	55	33	18
連携施設	中部国際医療センター	502	135	8	21	14	4
連携施設	多治見市民病院	250	128	11	10	4	1
連携施設	岐阜・西濃医療センター西美濃厚生病院	315	0	1	1	3	0
連携施設	郡上市民病院	144		2	2		0
連携施設	松波総合病院	501	194	8	31	26	48
連携施設	西濃厚生病院	400	176	10	9	10	2

連携施設	岐北厚生病院	262	130	8	5	4	0
連携施設	大垣市民病院	817	227	7	24	22	4
連携施設	藤田医科大学病院	1,376	378	12	60	78	19
連携施設	下呂市立金山病院	50		1	2	2	0
連携施設	久美愛厚生病院	300	130	3	6	7	2
連携施設	国民健康保険　飛騨市民病院	81	45	5	1	1	0
連携施設	大阪公立大学医学部附属病院	965	234	12	90	75	11
連携施設	関西電力病院	400	191	10	24	21	7
特別連携施設	岐阜清流病院	363	120	7	0	3	0
特別連携施設	澤田病院	190	150	5	4	4	0
特別連携施設	まつなみ健康増進クリニック	0	0	7	0	0	0
特別連携施設	恵那市国民健康保険岩村診療所	0	0	1	0	0	0

表 2. 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
岐阜市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜県総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜赤十字病院	×	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○
高山赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
羽島市民病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	○	△	△
大垣徳洲会病院	△	○	○	△	△	○	△	×	△	△	×	×	△
下呂温泉病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長良医療センター	△	△	○	△	△	×	○	×	△	○	○	○	△
中濃厚生病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
河村病院	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△
美濃病院	○	○	○	○	○	△	△	×	△	△	△	△	△
愛知医科大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国立健康危機管理研究機構　国立国際医療研究センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
中部国際医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
多治見市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

岐阜・西濃医療センター西美濃厚生病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	△	△	○	○
郡上市民病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	○	○	○	○
松波総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
西濃厚生病院	○	○	○	○	○	△	○	○	○	△	△	○	○
岐北厚生病院	△	○	○	△	△	○	○	△	△	△	△	○	○
大垣市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○
藤田医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
下呂市立金山病院	○	△	△	○	○	△	△	×	△	△	△	△	○
久美愛厚生病院	△	○	○	△	△	△	○	△	△	△	△	○	○
国民健康保険　飛騨市民病院	○	○	○	○	△	○	○	△	△	△	△	○	○
大阪公立大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
関西電力病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜清流病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
澤田病院	○	×	○	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×
まつなみ健康増進クリニック	△	△	△	△	△	△	△	△	×	△	△	×	×
恵那市国民健康保険岩村診療所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階（○，△，×）に評価しました．
（○：研修できる，△：時に経験できる，×：ほとんど経験できない）

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．岐阜市民病院内科専門研修施設群研修施設は岐阜県および愛知県内の医療機関から構成されています．

岐阜市民病院は，岐阜県岐阜医療圏の中心的な急性期病院です．そこでの研修は，地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．

連携施設には，内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，地域医療や全人的医療を組み合わせて，急性期医療，慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的として構成しています．

高次機能・専門病院では，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．

地域基幹病院では，岐阜市民病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます．

地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します．

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

・専攻医 1 年目あるいは 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）2 年目あるいは 3 年目の研修施設を調整し決定します.
・専攻医 2 年目あるいは病歴提出を終える専攻医 3 年目の 1 年間，連携施設で研修をします（研修プラン）．なお，研修達成度によってはSubspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）.

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

岐阜県岐阜医療圏と近隣医療圏にある施設から構成しています．岐阜県内で最も距離が離れている高山赤十字病院は，岐阜市民病院から乗用車にて，2 時間 10 分程度の移動時間であり，また県外で最も距離が離れている国立国際医療研究センター病院へは電車で 2 時間半程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低いです.

1)専門研修基幹施設

岐阜市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･岐阜市正職員または非常勤嘱託員として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署(岐阜市役所職員厚生課)があります. ･ハラスメント委員会が岐阜市役所に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･総合内科専門医が 24 名在籍しています（下記） ･内科専門研修プログラム管理部会（統括責任者（診療科副部長），統括副責任者（診療科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会（部会）との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修部会と内科専門研修プログラム管理委員会を設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2026 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（市民公開講座；2025 年度実績 6 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2023 年度 15 体,2024 年度 8 体,2025 年度 15 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室を整備しています. ･臨床研究審査委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 12 回）しています. ･治験管理センターを設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 12 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 2 演題以上の学会発表（2024 年実績 2 演題）をしています.
指導責任者	杉山　昭彦 【内科専攻医へのメッセージ】 岐阜市民病院は，岐阜県岐阜医療圏の中心的な急性期病院であり，岐阜医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 32 名，日本内科学会総合内科専門医 24 名，日本消化器病学会消化器病専門医 14 名，日本循環器学会循環器専門医 6 名，日本内分泌学会専門医 3 名，日本糖尿病学会専門医 4 名，日本腎臓学会専門医 3 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名，日本血液学会血液専門医 11 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本リウマチ学会専門医 5 名，日本肝臓学会専門医 7 名，日本救急医学会救急科専門医 2 名，日本老年医学会専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 23,739 名（1 ヶ月平均）　入院患者 15,275 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本糖尿病学会認定教育施設，日本病院総合診療医学会認定施設，日本老年医学会認定施設，日本内分泌学会認定教育施設，日本内科学会認定医制度教育病院，日本リウマチ学会教育施設，日本東洋医学会研修施設，日本循環器学会認定循環器専門医研修施設，日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設，日本透析医学会教育関連施設，日本腎臓学会研修施設，日本神経学会准教育施設，日本消化器病学会認定施設，日本消化器内視鏡学会認定指導施設，日本肝臓学会認定施設，日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設，日本胆道学会認定指導施設，日本消化管学会胃腸科指導施設，日本カプセル内視鏡学会認定指導施設，日本血液学会血液研修施設，日本輸血・細胞治療学会認定・臨床輸血看護師制度指定研修施設，日本呼吸器内視鏡学会認定施設，日本呼吸器学会認定施設，日本臨床腫瘍学会認定研修施設，日本がん治療認定医機構認定研修施設，日本緩和医療学会認定研修施設，日本救急医学会救急科専門医指定施設

2)専門研修連携施設

1．岐阜大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 1 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2014 年度実績 24 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績約 20 演題）をしています.
指導責任者	大倉　宏之
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 39 名，日本内科学会総合内科専門医 34 名,日本消化器病学会消化器専門医 11 名，日本循環器学会循環器専門医 9 名，日本内分泌学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 13 名，日本腎臓学会腎臓専門医 2 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本血液学会血液専門医 4 名，日本神経学会神経内科専門医 3 名，日本アレルギー学会専門医（内科）1 名，日本リウマチ学会リウマチ専門医 3 名，日本感染症学会専門医 1 名，日本老年医学会専門医 2 名，日本肝臓病学会専門医 9 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 731 名（1 ヶ月平均）　入院患者 383 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定制度教育病院，日本消化器病学会認定施設日本呼吸器学会認定施設，日本糖尿病学会認定教育施設，日本腎臓病学会研修施設，日本アレルギー学会認定教育施設，日本消化器内視鏡学会認定指導施設，日本循環器学会認定循環器専門医研修施設，日本老年医学会認定施設，日本肝臓学会認定施設，日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設，日本透析医学会認定医制度認定施設，日本血液学会認定研修施設，日本大腸肛門病学会専門医修練施設，日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設，日本神経学会専門医制度認定教育施設，日本脳卒中学会認定研修教育病院，日本呼吸器内視鏡学会認定施設，日本神経学会専門医研修施設，日本内科学会認定専門医研修施設，

	日本老年医学会教育研修施設，日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設，日本東洋医学会研修施設，日本臨床腫瘍学会認定研修施設，日本感染症学会認定研修施設，日本がん治療認定医機構認定研修施設，日本高血圧学会高血圧専門医認定施設，ステントグラフト実施施設，日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設，日本認知症学会教育施設，日本心血管インターベンション治療学会研修施設

2. 岐阜県総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があり、24 時間利用可能です。 ･シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ･ハラスメント委員会が設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含めて利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 27 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうち全疾患群について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検(2024 年度実績 8 体、2025 年度実績 6 体)を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催(2025 年度実績 11 回)しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2025 年度実績 12 回)しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 7 演題）をしています。
指導責任者	荒井　正純 【内科専攻医へのメッセージ】 岐阜県総合医療センターは岐阜市を含む岐阜地区での唯一の救命救急センターを運営している病院であり、「断らない医療」をモットーとしています。1 次救急から 3 次救急に及ぶ大変多くの救急症例を受け入れており、そのために幅広い領域で豊富な症例を経験することができます。また、岐阜県総合医療センターが認定されている医療機関群Ⅱ群施設は大学病院本院に準じた病院とされており、若手医師の教育を重要な責務としているのみならず岐阜県内の医療をリードする役割を担うため、他院では行えないような高度先進医療にも積極的に取り組んでいます。多くの指導医・先輩医師による手厚い指導医体制も当院の特徴です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 27 名,日本内科学会総合内科専門医 30 名,日本消化器病学会消化器専門医 17 名，日本循環器学会循環器専門医 15 名，日本内分泌学会専門医 3 名，日本糖尿病学会専門医 5 名，日本腎臓病学会専門医 3 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名，日本血液学会血液専門医 1 名，日本神経学会神経内科専門医 4 名，日本リウマチ学会専門医 3 名，日本感染症学会専門医 3 名，日本老年医学会専門医 1 名，日本肝臓学会専門医 12 名，日本消化器内視鏡学会 17 名、日本臨床腫瘍学会専門医 2 名　ほか

外来・入院患者数	外来患者 12,275 名（1 ヶ月平均）　入院患者 517 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会専門医制度認定施設，日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ・Ⅱ，日本腎臓病学会認定教育施設，日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設，日本消化器内視鏡学会指導施設，日本循環器学会循環器専門医研修施設，日本肝臓学会認定施設，日本透析医学会専門医制度教育関連施設，日本血液学会認定専門研修教育施設，日本神経学会専門医制度認定教育施設，日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設，日本内科学会認定教育施設，日本心血管インターベンション治療学会研修施設,日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修認定施設,日本感染症学会認定研修施設,日本不整脈心電図学会認定不整脈専門医研修施設,日本動脈硬化学会専門医教育病院,日本病院総合診療医学会認定施設,日本膵臓学会認定指導施設,日本リウマチ学会教育施設,日本脈管学会認定研修指定施設，日本胆道学会認定指導医制度指導施設,日本内科学会認定医制度教育病院,日本気管食道科学会認定専門医研修施設,臨床遺伝専門医制度研修施設　など

3．岐阜赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院です。 ・施設内に研修に必要な図書やインターネットの環境が整備されております。 ・常勤医として労務環境が保障されております。 ・メンタルヘルスに関する相談窓口が整備されており、職員とは直接関係のないカウンセラーに相談が出来る環境があります。 ・ハラスメント委員が各職種で任命されており相談可能です。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室、宿直室等が完備されております。 ・敷地内に院内保育所があります。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 4 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、指導医が施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会は定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催して、専攻医へ参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。剖検数が少なく開催が困難な場合には、基幹施設や内科学会が企画する CPC の受講を促している。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 12 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち特に 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数が経験できます。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書、インターネット環境などを整備しています。 ・倫理委員会を設置しています。 ・日本内科学会講演会や同地方会にて年に 1 演題以上は学会発表をしております。
指導責任者	石森　正敏 【内科専攻医へのメッセージ】 岐阜赤十字病院は岐阜医療圏に位置する「災害拠点病院」「地域医療支援病院」「第一種・第二種感染症指定医療機関」として急性期から在宅医療まで岐阜市北部を中心に地域医療を学べます。また、地域医療に必要な知識、技術の習得はもちろん、対応できる人材の育成に努めています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名、日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医 1 名･専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本内分泌学会指導医 1 名･専門医 1 名、日本糖尿病学会指導医 1 名･専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器指導医 1 名、日本肝臓学会肝臓指導医 1 名、日本血液学会血液指導医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 1 名　ほか

外来・入院患者数	外来患者 10,576 名（1 ヶ月平均）　入院患者 5,363 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の 12 分野及び 70 疾患群
経験できる技術・技能	急性期医療だけでなく地域医療支援病院として、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携を行い、入退院支援員と共にチーム医療が経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器内視鏡学会認定制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器がん検診学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本甲状腺学会専門医制度認定専門医施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ 日本血液学会認定専門研修教育施設

4. 高山赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･常勤医として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルスサポートチーム）があります。 ･ハラスメント委員会が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 6 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025 年度実績　医療倫理 3 回、医療安全 12 回、感染対策 15 回） ･研修施設群合同カンファレンス（2026 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025 年度実績 2 回） ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025 年度実績 25 回）
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（2025 年度実績 4 演題）
指導責任者	福野 賢二
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本肝臓学会専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、専門医 2 名、日本内分泌学会指導医 1 名、専門医 1 名、日本循環器内科学会専門医 2 名、日本糖尿病学会指導医 1 名、専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本救急医学会指導医 1 名、専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 13,193 名（1 ヶ月平均）、入院患者 9,181 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育関連病院、日本消化器病学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ、日本消化器内視鏡学会指導連携施設、日本肝臓学会認定施設、日本血液学会専門研

	修教育施設、日本脳卒中学会研修教育病院、日本内分泌学会認定教育施設、日本循環器科学会循環器専門医研修関連施設、日本病院総合診療医学会認定施設

5. 羽島市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 0 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 12 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，血液を除く，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 0 演題）をしています.
指導責任者	酒井　勉
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 1 名，日本内科学会総合内科専門医 3 名,日本消化器病学会消化器専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 1 名，日本神経学会神経内科専門医 1 名，日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名，　ほか
外来・入院患者数	外来患者 384.5 名（1 日平均）　入院患者 172.0 名（1 日平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 7 領域，25 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育関連病院，消化器病学会専門医研修施設，循環器病学会専門医研修施設　肝臓病学会認定施設，消化器内視鏡学会指導施設，内分泌代謝学会専門医研修施設，糖尿病学会教育施設，神経学会専門医準教育施設

6. 大垣徳洲会病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·ハラスメント委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績　医療倫理 2 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，血液，膠原病，感染症を除く，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，神経，アレルギーおよび救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表はありません.（2014 年度実績　0 演題）
指導責任者	安藤　みゆき
指導医数	日本内科学会指導医 4 名，日本内科学会総合内科専門医 1 名,日本消化器病学会消化器専

（常勤医）	門医 1 名，日本循環器学会循環器専門医 1 名，日本内分泌学会専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 2 名，日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名，日本肝臓病学会専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 2,041 名（1 ヶ月平均）　入院患者 385 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 4 領域，30 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
学会認定施設（内科系）	日本消化器内視鏡学会認定指導施設，日本消化器学会胃腸科指導施設

7．下呂温泉病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表はありません．（2025 年度実績　0 演題）
指導責任者	森田　浩之
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 2 名，日本内科学会総合内科専門医 2 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 4,572 名（1 ヶ月平均）　入院患者 3,798 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定教育関連病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設

8．長良医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 6 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 0 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 12 回）を定期的に開催し，専攻医に受講

	を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，腎臓，血液を除く，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，呼吸器，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 2 演題）をしています.
指導責任者	松野　祥彦
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6 名，日本内科学会総合内科専門医 5 名，日本消化器病学会消化器専門医 1 名，日本循環器学会循環器専門医 2 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，日本感染症学会専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 3,194.4 名（1 ヶ月平均）　入院患者 7,931.5 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 3 領域，22 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
学会認定施設 （内科系）	日本呼吸器学会認定施設，日本呼吸器内視鏡学会認定施設，日本感染症学会認定研修施設，日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

9. 中濃厚生病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 12 名在籍しています. ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 2 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 4 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	白木　亮 【内科専攻医へのメッセージ】 中濃厚生病院では豊富な救急医療の件数があります，また、病院全体の一日平均入院患者数は 350 人弱、一日平均外来患者数が約 900 名弱と患者数・症例が豊富であり、多くの症例を主担当医として経験でき実践的な研修が可能です.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6 名，日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名， 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名， 日本血液学会血液専門医 1 名，日本神経学会神経内科専門医 1 名， 日本リウマチ学会専門医 2 名，日本感染症学会専門医 2 名，

	日本救急医学会救急科専門医 3 名，　ほか
外来・入院患者数	外来患者 889.0 名（1 ヶ月平均）　入院患者 326.1 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院，日本循環器学会認定循環器専門医研修施設，日本呼吸器学会認定施設，日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設，日本消化器病学会専門医制度認定施設，日本消化器内視鏡学会指導施設，日本肝臓学会認定施設，日本腎臓学会研修施設，日本血液学会認定血液研修施設，日本糖尿病学会認定教育施設，日本内分泌学会認定教育施設，日本がん治療認定医機構認定研修施設，日本救急医学会救急科専門医指定施設，日本集中治療医学会専門医研修施設，日本感染症学会研修施設，日本臨床腫瘍学会認定研修施設，日本医学放射線学会専門医修練施設，日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設，日本病理学会研修登録施設，日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度認証施設，日本緩和医療学会認定研修施設，日本病院総合診療医学会認定施設，全国国民健康保険診療施設協議会地域包括医療・ケア認定施設

10. 河村病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度協力型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 3 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	
指導責任者	橋本　恭成
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 3 名，日本内科学会総合内科専門医，4 名，日本神経学会神経内科専門医 4 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 3106.1 名（1 ヶ月平均）　入院患者 139.8 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会教育関連施設，日本神経学会認定教育施設，日本認知症学会教育施設

11. 美濃病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります ・病院任期付常勤医師として労務環境が保証されています ・ハラスメント防止に適切に対処する部署があります ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が完備されています. ・敷地内に院内保育所があり利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】	・指導医が 1 名在籍しています 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設

2)専門研修プログラムの環境	に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 2 回，医療安全 2 回、感染対策 2 回（各複数回開催）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（美濃地区臨床研究会　年６回定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	内科系の学術集会あるいは同地方会の参加または発表等、学術研修活動を推奨支援しています。また研修に伴う費用の支援があります
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 横家　正樹 　美濃市立美濃病院は、中濃医療圏に位置し地域中核病院として急性期から回復・維持期（慢性期）までの基礎的、専門的医療を学べます。主治医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）までの経時的な診断・治療の流れを通じて、地域医療・社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践出来ます。
指導医数 （常勤医）	日本循環器学会専門医１名（常勤）
外来・入院患者数	内科（１か月実績）　外来：約 2,430 名　入院患者 80 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、40 疾患群の症例を経験することが出来ます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	がんの急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応したがん患者の診断、治療、緩和ケア、終末期医療などを通じて、地域に根ざした医療、病診・病病連携、在宅医療なども経験出来ます。
学会認定施設 （内科系）	日本地域医療学会　地域総合診療専門研修プログラム研修機関施設

12. 愛知医科大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型相当大学病院です。 ･研修に必要な医学情報センター（図書館）があり，文献検索や電子ジャーナルの利用が 24 時間可能なインターネット環境が院内全体に整っています。 ･専攻医は，愛知医科大学病院　助教（専修医）として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ･ハラスメント防止委員会が設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ･臨床系女性教員の特別短時間勤務を実施しています。 ･敷地内に保育所『アイキッズ』があり，給食対応の実施を行っており，利用が可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･内科指導医が 74 名在籍しています（下記）。 ･研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（202３年度実績　医療安全２回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（202３年度実績 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全てで定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

3)診療経験の環境	
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 12 演題の学会発表（2023 年度実績 49 演題：専修医発表のみ）をしています。
指導責任者	高見　昭良 【専攻医へのメッセージ】 愛知医科大学病院内科は、消化管、肝胆膵、循環器、内分泌・代謝、糖尿病、腎臓・リウマチ膠原病、呼吸器・アレルギー、神経、血液の９診療科とプライマリーケアセンターを担当する総合診療科で構成されています。一般診療から高度な専門医療まで 74 名の指導医を中心に研修を行なっており、「研修手帳」に定められた 70 疾患群、200 症例は全て網羅することができます。専門医取得や大学院進学もシームレスに行うことができる環境です。学会発表はもちろん、臨床研究および基礎研究の双方を行う環境も整備されています。最新の設備と充実した指導医の下で、内科専門医の第一歩をスタートしましょう。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 77 名，日本内科学会総合内科専門医 47 名 日本消化器病学会消化器専門医 25 名， 日本循環器学会循環器専門医 24 名， 日本内分泌学会専門医 6 名， 日本糖尿病学会専門医 16 名， 日本腎臓病学会専門医 11 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名， 日本血液学会血液専門医 8 名， 日本神経学会神経内科専門医 16 名， 日本アレルギー学会専門医（内科）6 名， 日本リウマチ学会専門医 5 名， 日本感染症学会専門医 3 名， 日本肝臓学会専門医 6 名， 日本臨床腫瘍学会専門医 2 名， 日本消化器内視鏡学会専門医 21 名
外来・入院患者数	外来患者 53,979 名（1 ヶ月平均延数）　入院患者 22,513 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設

	日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

13. 国立国際医療研究センター病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立研究開発法人常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課労務管理室長担当）があります。 ・「セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程」が定められており、ハラスメント防止対策委員会も院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，当直室などが整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。（条件あり）
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・内科学会指導医は 55 名在籍しております。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を医療教育部門にて管理しております。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付けております。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 5 回）しております。 ・地域参加型のカンファレンス（糖尿病週間・世界糖尿病デー市民公開講座，新宿区練馬区合同消化器カンファレンス，城西循環器研究会，若松河田呼吸器研究会，吸入指導勉強会など；2014 年度実績 21 回）を定期的に開催しております。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度開催実績 2 回：受講者 12 名）を促しております。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年実績 16 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ・ 倫理委員会を設置し，定期的に開催（2023 年度実績 12 回）しています. ・ 治験管理室を設置し，定期的に治験等審査会を開催（2023 年度実績 12 回）しています. ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１０演題以上の学会発表（2014 年度実績 10 演題）をしています.
指導責任者	放生　雅章
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 55 名，日本内科学会総合内科専門医 33 名，日本消化器病学会専門医 17 名，日本肝臓学会専門医 4 名，日本循環器学会専門医 4 名，日本内分泌学会専門医 7 名，日本糖尿病学会専門医 5 名，日本呼吸器学会専門医 16 名，日本血液学会専門医 11 名，日本神経学会専門医 4 名，日本アレルギー学会専門医 2 名，日本リウマチ学会専門医 6 名，日本感染症学会専門医 17 名，日本老年医学会専門医 0 名，日本救急医学会専門医 15 名
外来・入院患者数	内科外来患者 19,152 名（ 1 ヶ月平均） 内科入院患者 783 名(1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳(疾患群項目表)にある 13 分野，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会教育認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 （日本内科学会が定める 13 領域のうち、日本老年医学会を除く 12 学会の教育施設認定を受けています） 日本輸血学会認定医制度指定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 骨髄移植推進財団非血縁者間骨髄採取・移植認定施設 日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修指定施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本リハビリテーション医学会認定研修施設 日本集中治療医学会認定専門医研修施設 日本ペインクリニック学会認定医資格指定研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本栄養療法推進協議会ＮＳＴ稼働認定施設 日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働施設認定 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設認定 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など

14. 中部国際医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･社会医療法人厚生会 後期研修医として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）があります。 ･ハラスメント委員会が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー、当直室が整備されています。 ･院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラ	･指導医は 21 名在籍しています（下記参照）。 ･内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、プログラム統括責

ムの環境	任者（糖尿病センター長･内科部長、総合内科専門医かつ指導医）、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科代表）、連携施設担当委員、及び事務局代表者で構成されます。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年実績 18 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型の研修会･カンファレンス（医療従事者研修会、可茂循環器セミナー、中濃医学セミナー、糖尿病オープン教室、緩和ケア研修会など：2025 年実績 29 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を推奨し、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査の際には、臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器内科、循環器内科、内分泌代謝内科、腎臓内科で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2025 年 4 体、2024 年 2 体、2023 年 3 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、不定期に開催（2025 年実績 6 回）しています。 ･治験管理室を設置し、不定期に受託研究審査会を開催（2025 年実績 12 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年実績 3 演題）をしています。
指導責任者	髙見和久 【内科専攻医へのメッセージ】 中部国際医療センターは、岐阜県中濃医療圏の中心的な急性期病院であり、中濃医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。極ありふれた Common disease から学会報告しうる稀で貴重な症例にいたるまで幅広く経験でき、無理なく専攻医として必修とされる症例を主担当医として受け持つことができます。 また多職種のスタッフが一丸となって専攻医のために研修をサポートする体制が備わっており、夢中で過ごした初期研修のあと、じっくりと内科学の研鑽、習熟するに最適な環境のもと内科専門医を目指して下さい。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 21 名、日本内科学会総合内科専門医 14 名 日本消化器病学会消化器病専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 3 名 日本腎臓学会腎臓専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 10 名　他
外来・入院患者数	外来患者：：27,387 名（1 ヶ月平均）　入院患者：14,070 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域の内、概ね 60 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、福祉連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器科学会　循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本糖尿病学会　認定教育施設 日本消化器病学会　専門医制度認定施設 日本腎臓学会　研修施設 日本透析医学会　専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会　指定施設 日本がん治療認定医機構　認定研修施設 日本臨床細胞学会　施設認定 日本肝臓学会　認定施設 日本プライマリ･ケア連合学会 認定新家庭医療後期研修プログラム 日本病理学会　研修登録施設　など

15. 多治見市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要なインターネットの環境が整備されています。 ・適切な労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに対処する部署（総務課）があります。 ・ハラスメントに対しても適切に対処します。（総務課） ・女性専攻医が安心して勤務できる休憩室や更衣室、男女別のシャワー室等が完備されています。 ・敷地内に保育所があり利用可能となっています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	· 総合内科専門医が 4 名在籍しています。 · 内科指導医が 10 名在籍しています。 · 内科専門研修プログラム管理部会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会（部会）との連携を図ります。 · 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修部会と内科専門研修プログラム管理委員会を設置します。 · 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 · 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 · CPC を定期的に開催（2025 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 · 地域参加型のカンファレンス（市民公開講座等）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 · プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. · 日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します. ・毎週水曜日　内科総合カンファレンス実施します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち消化器分野、循環器分野、腎臓分野、リウマチ膠原病分野、呼吸器・アレルギー分野、内分泌・糖尿病分野では専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会　発表をします。 日本内科学会認定 JMECC インストラクターコース
指導責任者	氏名：今井裕一 【専攻医へのメッセージ】 当院の特徴は、週 1 回内科医師、救急総合診療部、看護師・薬剤師・検査技師を含めた内科総合カンファランスを行なっていることです。肺炎・尿路感染症・敗血症から各診療科の稀な疾患まで幅広く症例呈示があり、意見交換しています。胸部・腹部 CT の読み方、心電図・心カテの所見の見方、消化管内視鏡治療の最前線まで学修できます。さらに電解質異常や内分泌疾患の発見のこつなども教わります。common disease の治療の総合内科医としてどの分野の医師であっても行なうことができるようなシステムにしています。将来どのようなサブスペシャリティーを専攻しても、内科医としての基本を充分修得できるシステムです。1 年 6 か月で日本内科学会の提示する基準を達成できるようにします。さらに、主担当医として診療にあたり、医学的面だけではなく、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医に成長します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 10 名　日本内科学会総合内科指導医 1 名・専門医 3 名　日本専門医機構日本消化器病学会消化器病専門医 2 名　日本消化器内視鏡学会内視鏡専門医 2 名　日本肝臓学会 肝臓専門医 1 名　日本ヘリコバクター学会ピロリ菌感染症認定医 1 名　日本循環器学会循環器専門医　2 名　日本不整脈心電学会不整脈専門医 1 名　日本腎臓学会腎臓指導医 2 名・専門医 1 名　日本リウマチ学会指導医 2 名　日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名　日本糖尿病協会療養指導医 1 名　日本甲状腺学会甲状腺専門医 1 名　日本内分泌学会内分泌代謝科指導医 1 名　日本専門医機構　内分泌代謝・糖尿病内科領域専門研修指導医 1 名　日本甲状腺学会甲状腺専門医 1 名　日本認知症学会指導医 1 名　日本神経内科学会神経内科指導医 1

	名　日本臨床免疫学会免疫療法認定医１名　日本リハビリテーション医学会認定臨床医１名　心臓リハビリテーション指導士１名　日本骨粗鬆学会認定医１名　日本がん治療認定医機構認定 がん治療認定医１名　日本救急医学会　認定救急専門医１名　日本蘇生学会　指導医１名　日本専門医機構　総合診療特任指導医 3 名　日本プライマリ・ケア連合学会　指導医 1 名　日本臨床免疫学会　免疫療法認定医　1 名　JMECC インストラクター１名　他
外来・入院患者数	外来患者数（1ヶ月平均）：　10,070 名 入院患者数（1ヶ月平均）：　6,057 名　　2025 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域における 2 次救急医療を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会内科専門医研修施設 日本消化器病学会消化器専門医指導連携施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本循環器科学会循環器専門医研修関連施設 日本不整脈心電図学会不整脈専門医研修施設 日本腎臓学会腎臓専門医研修施設 日本リウマチ学会リウマチ専門医教育施設 日本甲状腺学会甲状腺専門医教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医教育施設 日本がん治療認定医機構　認定研修施設 など

16. 岐阜・西濃医療センター　西美濃厚生病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 12 回，感染対策 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2018 年度実績 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（2018 年度実績 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2018 年度実績なし）をしています.
指導責任者	前田　晃男
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　1 名、日本内科学会総合内科専門医　3 名、日本消化器病学会消化器専門医　2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医　1名、日本アレルギー学会専門医（内科）　1 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 8,591 名（1 ヶ月平均）　入院患者 5,601 名（1 ヶ月平均延数）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
学会認定施設（内科系）	日本消化器病学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設

17. 郡上市民病院.

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は2名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急のほぼ全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 0 演題）をしています。
指導責任者	畑佐匡紀 【内科専攻医へのメッセージ】 郡上市民病院は、山紫水明の町である郡上市八幡町内に位置し、東海北陸自動車道郡上八幡インターから車で約１分の所にあります。郡上市は、高山市に次いで広大な面積を有し、当院はその中核病院としての役割を担い、プライマリーケアを含めて多種の疾患の患者様を診させていただいています。自然あふれる環境の中での研修を体験してみませんか。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 2名、日本循環器学会循環器専門医 2名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,908 名（1 ヶ月平均）　入院患者 940 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 など

18. 松波総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書とインターネット環境があります. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ・女性医師専攻医が安心して勤務出来るように，休憩室，当直室が完備されています. ・敷地内に院内保育所があり，24 時間利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 31 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療科部長）専門医研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹内施設において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理、医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績　13 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのため

	の時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度関連施設にて開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記） ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記） ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実積 48 体、2024 年度実績 45 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書コーナー、インターネット環境などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 3 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 4 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 5 演題）をしています.
指導責任者	田上　真 【内科専攻医へのメッセージ】 松波総合病院は、岐阜医療圏に位置して地域中核病院として急性期から慢性期までの基礎的、専門的医療を学べます。主治医として入院から退院まで経時的に診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践出来る内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 31 名 日本内科学会総合内科専門医 26 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本内分泌学会内分泌専門医 6 名 日本糖尿病学会専門医 6 名、他
外来・入院患者数	外来患者　13,916 名（実数）　入院患者　9,968 名（実数）
経験できる疾患群	13 領域のうち、地域中核病院として 12 領域 65 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。 技術。技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く学ぶことが出来ます。 急性期医療だけではなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会　認定医制度教育病院 日本内科学会　専門医研修基幹施設 日本循環器学会　認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会　研修施設 日本呼吸器学会　認定施設 日本呼吸器内視鏡学会　専門医制度認定施設 日本超音波学会　認定超音波専門医研修施設 日本消化器病学会　専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会　指導医施設 日本糖尿病学会　認定教育施設 日本内分泌代謝学会　内分泌代謝科認定教育施設 日本高血圧学会　専門医認定施設 日本透析医学会　教育関連施設 日本感染症学会　連携研修施設 日本がん治療認定医機構　認定研修施設 日本臨床腫瘍学会　認定施設 日本臨床細胞学会　認定施設 日本病院総合医学会　認定施設 日本腎臓学会　認定施設 日本胆道学会認定指導医制度　指導施設認定 日本血液学会　専門研修認定施設 日本肥満症学会　肥満症専門医認定施設 日本膵臓学会　認定指導施設

	など

19. 西濃厚生病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室・インターネット環境を整備しています。 ・西濃厚生病院医師として、就業環境等が保障されます。 ・メンタルストレス並びにコンプライアンスに適切に対応する部署（企画総務課）があります。 ・監査室・内部統制室が岐阜県厚生連本所に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医は９名在籍しています。 ・研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療安全並びに感染対策研修会を定期的に開催（半期に一度）し、専攻医に受講を義務付けます。 ・ 定期的なカンファレンスに参画し、専攻医に受講を義務付けます。 ・ CPC の開催時に、専攻医の受講を義務付けます。 ・ 定期的な地域との症例検討会等へ、専攻医に参加を義務付けま。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・内科領域 13 分野すべてを経験できます。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会において、年間で計 1 演題以上の学会発表を行います。
指導責任者	足立　政治 【内科専攻医へのメッセージ】 西濃厚生病院は西濃医療圏に位置し、西濃北部地域の中核病院として急性期・回復期・地域包括ケア、緩和ケア並びに予防医療（検診）までの基礎的、専門的な医療を学べます。主治医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）までの診断・治療の流れを通じ、社会的背景・療養環境調整をも包括する医療を実践出来る内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医９名，日本総合内科専門医 10 人、日本消化器病学会消化器病指導医３名，日本消化器内視鏡学会指導医３名，日本肝臓病学会指導医１名,日本血液学専門医１名、日本循環器学会循環器専門医５名
外来・入院患者数	外来患者 11,398 名、入院患者　8,269 名（いずれも R7 年度 1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	13 領域の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	・内科専門医として必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く行います。 ・急性期医療に留まらず、がん患者の診断・治療、緩和ケア、終末期医療などを通じ、地域に根ざした医療や病診連携・病病連携等が経験できます。
学会認定施設 （内科系）	・日本内科学会認定医教育関連施設 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 ・日本胆道学会認定指導医制度指導施設 ・日本肝臓学会認定施設

20. 岐北厚生病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	研修に必要な研修室、図書室、インターネット環境を有します。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	総合内科専門医が 4 名在籍しています。 内科専門研修プログラム管理部会にて基幹施設（市民病院）との連携を図ります。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	内科領域 13 分野のうち主に 6 分野において重点的に深い研修ができます。

認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	臨床研究と必要な図書室を有します。積極的な学会、研究会への参加を奨励しています。
指導責任者	早川　和良
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名，日本内科学会総合内科専門医 4 名,日本消化器病学会消化器病専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 1 名，日本腎臓学会腎臓専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名，日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 3 名,日本透析医学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来　5,538 人（1 か月平均）　　入院　5,589 人（1 か月平均）
経験できる疾患群	13 領域のうち、6 分野について特に重点的に研修できます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例を経験しながら修得できます。 急性期医療に加え、地域社会に根づいた超高齢社会に対応した診療、病診連携、病病連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本透析医学会教育関連施設 日本肝臓学会関連施設

21. 大垣市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大垣市民病院正規職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（精神神経科医師）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 24 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに日本内科学会指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2024 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病院連携カンファレンス　2023 年度実績 4 回など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群の全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2021 年度　6 体、2022 年度　9 体、2023 年度 4 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・臨床倫理委員会を設置し開催（2023 年度実績 8 回）しています。 ・臨床研究審査委員会を設置し開催（2023 年度実績 11 回）しています。 ・治験管理センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2023 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間 3 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	傍島　裕司 【内科専攻医へのメッセージ】 大垣市民病院は岐阜県西濃地区（対象人口約 38 万人）の中核病院で、救急医療が盛んで

	一次から三次まで数多くの救急患者を扱っています。また、各疾患の症例数も東海地区では最も多く、内科の専門研修で症例の収集に困ることはありません。一方で、当院の特徴は市中病院でありながらリサーチマインドが盛んであることです。ホームページ（http://www.ogaki-mh.jp）を見ていただければわかりますが英語を含めた多くの論文および全国レベルでの発表をしています。各分野で多くの指導医、専門医もそろっており、内科専門医制度で資格を取得するには最適の病院と自負しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 24 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名 日本肝臓学会専門医 3 名、日本消化器学会消化器専門医 10 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本内分泌学会専門医　1 名、日本腎臓学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会 1 名
外来・入院患者数	外来患者　15,418 名（1 ヶ月平均、延べ、時間外を含む）、入院患者　8,744 名（1 ヶ月平均　延べ）　内科分のみ
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病々連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ＩＣＤ/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

22. 藤田医科大学病院

認定基準	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。

【整備基準 23】 1)専攻医の環境	研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ハラスメント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	指導医が 60 名在籍しています。（下記） 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策に関する認定共通講習を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ＣＰＣを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025 年度実績 10 回） 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 （2025 年度実績 27 演題）
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 藤田医科大学病院には 12 の内科系診療科（救急医学・総合内科,循環器内科、呼吸器内科・アレルギー科、消化器内科、血液・細胞療法科、リウマチ・膠原病内科、腎臓内科、内分泌・代謝・糖尿病内科、臨床腫瘍科、脳神経内科、認知症・加齢脳科学科、感染症科）があり,内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。また，救急疾患は高度救命救急センター（NCU,CCU,救命 ICU,GICU,ER,災害外傷センター）および各診療科のサポートによって管理されており，大学病院、特定機能病院としての専門的高度先進医療から尾張東部医療圏の中核病院としての一般臨床、救急医療まで幅広い症例を経験することが可能です。院内では各科のカンファレンスも充実しており、またキャンサーボードなど多職種合同検討会やアレルギー研究会など科を越えた勉強会検討会も数多く実施しております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　60 名 日本内科学会総合内科専門医　69 名 日本消化器病学会消化器病専門医　17 名 日本循環器学会循環器専門医　16 名 日本内分泌学会専門医　11 名 日本糖尿病学会専門医　8 名 日本腎臓学会専門医　10 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医　21 名 日本血液学会血液専門医　10 名 日本神経学会神経内科専門医　7 名 日本アレルギー学会専門医（内科）　5 名 日本リウマチ学会専門医　13 名 日本感染症学会専門医　4 名 日本救急医学会救急科専門医　21 名
外来・入院患者数	外来患者　3,867.5 名（2025 年度 1 日平均） 入院患者　1,357.0 名（2025 年度 1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定制度専門研修プログラム 日本リウマチ学会教育施設

	日本感染症学会研修施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設

23. 下呂市立金山病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･協力型臨床研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･下呂市正職員または非常勤嘱託員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署(下呂市役所人事課)があります。 ･ハラスメント委員会が下呂市役所に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、当直室、更衣室、が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･合内科専門医が 2 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理部会（責任者（副院長）、と内科部長（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設に設置されている研修委員会（部会）との連携を図ります。 ･連携施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修部会と内科専門研修プログラム管理委員会を設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野の内、主に総合内科、内分泌、代謝、救急において定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2019 年実績 2 演題）をしています。
指導責任者	木村　美香 【内科専攻医へのメッセージ】 　下呂市立金山病院は，岐阜県飛騨医療圏の最南端に位置し、山間地域における急性期及び回復期を担う病院です。基幹施設の連携施設として内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 　主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 2 名、日本内科学会総合内科専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 2,607 名（1 ヶ月平均）　入院患者 646 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野の内、主に総合内科、内分泌、代謝、救急。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら経験することができます。 回復期医療を中心に急性期医療や超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病

	病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	なし

24. 久美愛厚生病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･久美愛厚生病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（企画総務課）があります。 ･ハラスメントに対する窓口を設置し、男女別の担当者を配置しています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 7 名在籍しています（下記）。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022 年度実績　医療倫理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 4 回） ･ＣＰＣを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022 年度実績 2 回）
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。内分泌、代謝、神経、血液、腎臓については外来診療の研修が可能です。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 2 演題以上の学会発表をしています。（2022 年度実績 1 演題）
指導責任者	横山　有見子 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、飛騨地域において急性期医療から慢性期にいたるまで、また、予防医療についても役割を担っており、地域に根付いた全人的な内科診療を経験することができます。急性期病棟の他、感染症病床、結核病床、地域包括ケア病棟や療養病棟もあり、幅広い医療の研修が可能です。 内科は専門で細分化されていません。コモンな疾患から希な疾患まで、幅広く診療できるように優先的に主治医になっていただきます。入院患者の主治医になっていただき、副主治医として各専門科の指導医が担当します。外来は、初診外来を担当していただきます。再診枠については、６カ月以下の研修の場合は曜日を固定せず、専攻医の希望の日時に予約を入れて診察します。へき地診療所の診察に出張していただく場合があります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本感染症学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 1,427 名（1 ヶ月平均）、入院患者 5,460 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	･きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

25. 国民健康保険　飛騨市民病院

認定基準 【整備基準 23】	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。

1)専攻医の環境	（メディカルオンライン・今日の診療・医中誌Web・UpToDate） ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が1名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025年度実績　医療倫理0回、医療安全2回、感染対策2回） ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。ＣＰＣを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025年度実績0回） ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025年度実績2回）
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
指導責任者	工藤　浩
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 1名 日本内科学会総合内科専門医 1名 日本消化器病学会消化器専門医 1名 日本専門医機構総合診療専門医 1名、指導医 1名 日本消化器病学会消化器病指導医 1名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 2名、指導医 1名 日本プライマリ・ケア連合学会指導医 2名 日本老年医学会指導医 1名、日本地域医療学会指導医 2名
外来・入院患者数	外来患者 4,583 名（1ヶ月平均）　入院患者 1,575 名（1ヶ月平均）延数
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。 プライマリ・ケアの症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医及び総合診療医として必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本地域医療学会地域総合診療専門医「専門研修プログラム」研修施設

26. 大阪公立大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･臨床研修指定病院（基幹型研修指定病院）です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･大阪公立大学医学部附属病院前期研究医として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生担当）があります。 ･ハラスメント委員会が大阪公立大学に整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 90 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療安全 11 回、感染対策 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度剖検実績　11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための

	時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野のすべてにおいて定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 12 演題）をしています。
指導責任者	繪本　正憲（大阪公立大学内科連絡会教授部会会長） 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪公立大学は大阪府内を中心とした近畿圏内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 90 名，日本内科学会総合内科専門医 79 名， 日本消化器病学会消化器専門医 28 名，日本循環器学会循環器専門医 14 名， 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 6 名，日本腎臓病学会専門医 7 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 16 名，日本血液学会血液専門医 14 名， 日本神経学会神経内科専門医 6 名，日本消化器内視鏡学会専門医 22 名， 日本アレルギー学会専門医（内科）4 名，日本リウマチ学会専門医 5 名， 日本感染症学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 9 名， 日本老年学会老年病専門医 1 名，日本肝臓学会肝臓専門医 8 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 148,884 名（2025 年度　延べ数） 入院患者　80,445 名（2025 年度　延べ数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、 日本消化器病学会認定施設、 日本呼吸器学会認定施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、 日本腎臓学会研修施設、 日本アレルギー学会認定教育施設、 日本消化器内視鏡学会認定指導施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本老年医学会認定施設、 日本肝臓学会認定施設、 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、 日本透析医学会認定医制度認定施設、 日本血液学会認定研修施設、 日本神経学会認定教育施設、 日本脳卒中学会認定研修教育病院、 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、 日本東洋医学会研修施設、 日本臨床腫瘍学会認定研修施設、 日本肥満学会認定肥満症専門病院、 日本感染症学会認定研修施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設、 ステントグラフト実施施設、 日本認知症学会教育施設、 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、 日本リウマチ学会認定教育施設 など

27. 関西電力病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·関西電力病院非常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（関西電力株式会社内に設置）があります. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 24 名在籍しています. ·内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修部を設置します. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（基幹施設：西部大阪肝胆膵疾患地域連携会・市民公開講座，市民講座　本当に大切な肝臓・胆道・膵臓，関西電力病院レントゲン読影会，関西電力病院糖尿病フォーラム，Kansai Diabetes Network Seminar，北大阪生活習慣病病診連携をすすめる会，地域の糖尿病診療を考える会，KDF 研究会，糖尿病フォーラム，中之島循環器フォーラム）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修部が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうち 62 疾患群について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2020~2023 年度 28 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，インターネット環境などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	加地　修一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 関西電力病院は 400 床を有する全国的にも珍しい企業立病院ですが，関西電力関係者は家族も含めて全外来患者数の約 3%にすぎず、地域に開かれた地域中核病院です。 地域医療に貢献するべく、近年は救急医療にも注力しています。病院は高層で堂島川に面し，さらに高いビル群に囲まれた都会的な環境にある一方，周辺は古い下町の面影も残しています. 内科には循環器内科，血液内科，消化器内科，糖尿病・内分泌・代謝内科，腎臓内科，呼吸器内科，脳神経内科，腫瘍内科，リウマチ・膠原病内科の 9 専門科および緩和医療科があり，充実した指導医スタッフと共に最新設備を用いた研修を受けることができます．中規模病院であるため，診療科間の垣根が低くコンサルトが容易にできる良い伝統があります. 当院のプログラムでは，できるだけ専攻医の希望に沿ったローテートを予定しており，指導医は，知識，技術の指導を細やかに行うとともに，キャリアプランなど様々な相談に応じています．各専門科で早期に十分な症例数を経験できるため，後半には subspecialty を目指す研修も可能です. 連携病院は京都大学医学部附属病院，大阪公立大学医学部附属病院，北野病院，大阪赤十字病院、神戸市立医療センター中央市民病院、県立尼崎総合医療センターなど大規模病院と相互連携している一方，守口敬仁会病院、丹後中央病院とも連携しており，最新の医療から地域医療まで広い範囲の研修が可能です. 一方、病院には関西電力医学研究所が併設されており，基礎および臨床研究に携わることが可能です．このような学術的環境は大学病院以外ではなかなか体験できないと思います。指導医、スタッフは学術的に優れた人材がそろっています。

	アカデミックな環境で、臨床医としての修練を積んでみませんか。そのような意欲的な人材を求めています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 24 名，日本内科学会総合内科専門医 21 名，日本循環器学会専門医 9 名，日本消化器病学会専門医 8 名，日本消化器内視鏡学会専門医 8 名，日本肝臓学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 8 名，日本病態栄養学会専門医 5 名，日本内分泌学会専門医 4 名，日本血液学会専門医 3 名，日本腎臓学会専門医 3 名，日本透析医学会専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 3 名，日本呼吸器学会専門医 1 名，日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名，日本神経学会専門医 5 名ほか日本内科学会指導医 24 名，日本内科学会総合内科専門医 21 名，日本循環器学会専門医 9 名，日本消化器病学会専門医 8 名，日本消化器内視鏡学会専門医 8 名，日本肝臓学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 8 名，日本病態栄養学会専門医 5 名，日本内分泌学会専門医 4 名，日本血液学会専門医 3 名，日本腎臓学会専門医 3 名，日本透析医学会専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 3 名，日本呼吸器学会専門医 1 名，日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名，日本神経学会専門医 5 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 805 名（1 日平均） 入院患者 310 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本栄養療法推進協議会ＮＳＴ稼動施設認定 日本肝臓学会専門医施設認定 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本気管食道科学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本血液学会血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本認知症学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本臨床神経生理学会認定教育施設（脳波分野、筋電図・神経伝導分野） 日本透析学会認定施設　など

3)専門研修特別連携施設

1．岐阜清流病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】	・内科専門医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。

2)専門研修プログラムの環境	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファランスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、血液を除く、ほぼ全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会等　内科関連学会に積極的に参加しています。
指導責任者	越路正敏 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、急性期病棟、回復期病棟、療養病棟、地域包括ケア病棟を有し、急性期から回復期ならびに慢性期という、一患者の疾患発症から在宅までの一連の診療の研修が可能です。人工透析施設や緩和ケア病棟を有し、特殊な病態の専門的な研修を経験できます。また、コメディカルスタッフとの距離感も近く、チーム医療を研修するにも良い環境です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本循環器学会専門医 2 名、日本消化器学会専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医/専門医 1 名、日本肝臓学会指導医/専門医 1 名、日本神経学会専門医 1 名、日本救急医学会専門医 2 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者　6470 名（1 ヵ月平均）　入院患者　258 名（1 ヵ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患や血液疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざす医療、病診・病病連携なども経験できます。

2. 澤田病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています ・ハラスメントを担当する責任者が選任されております。 ・専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は２名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理　し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・院内感染防止対策委員会を毎月行い、定期的に講習会も開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち、循環器、呼吸器、総合内科、腎臓の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本透析医学会に年間で２～３演題の学会発表をしています。
指導責任者	長田紀淳 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、一般、療養病棟に加え約２００名の透析患者を診療しています。 入院患者、外来患者の急性期から慢性期疾患の研修が可能です。
指導医数 （常勤医）	日本血管外科学会指導医１名、臨床研修指導医２名（内科、整形外科）
外来・入院患者数	外来患者　4,338 名（１ヶ月平均）　入院患者　4,721 名（１ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある１３領域、７０疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携な

	ども経験できます。

3. まつなみ健康増進クリニック

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要な図書とインターネット環境が併設の松波総合病院にあります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）が法人内にあります。 ・女性医師専攻医が安心して勤務出来るように、休憩室、当直室が法人内に完備されています。 ・法人内に院内託児所があり、24 時間利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に法人内で開催（2024 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である松波総合病院で行う CPC（2024 年度実績 12 回）、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、その為の時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、循環器、血液、腎臓の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・法人内で日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	花立　史香 【内科専攻医へのメッセージ】 松波総合病院は、岐阜医療圏に位置して地域中核病院として急性期から慢性期までの基礎的、専門的医療を学べます。主治医として入院から退院まで経時的に診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践出来る内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 0 名、日本内科学会総合内科専門医 0 名
外来・入院患者数	外来患者　6,915 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。 複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	健診・検診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ、退院後の外来でのフォロー、患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。 入院が必要な患者の総合病院との病診連携。地域の内科病院としての外来診療。

4. 恵那市国民健康保険岩村診療所

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書とインターネット環境が併設の松波総合病院にあります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性医師専攻医が安心して勤務出来るように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が完備されています。 ・法人内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に法人内で開催（2022 年度実績　医療倫理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、呼吸器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症及び救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準	

【整備基準 23】 4)学術活動の環境	
指導責任者	前野　禎 【内科専攻医へのメッセージ】 　広範囲な疾患について病診連携を行っています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 0 名、日本内科学会総合内科専門医 0 名
外来・入院患者数	外来患者　645 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能・地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

別表１（各年次到達目標）

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5		70疾患群	56疾患群 （任意選択含む）	45疾患群 （任意選択含む）	20疾患群	29症例 （外来は最大7）※3
症例数※5		200以上 （外来は最大20）	160以上 （外来は最大16）	120以上	60以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて，「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること．

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする．

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める．（全て異なる疾患群での提出が必要）

※4「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する．
例）「内分泌」2 例+「代謝」1 例，「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる。

◆岐阜市民病院内科専門研修プログラム管理委員会名簿

（令和 8 年 4 月現在）

岐阜市民病院

小木曽　富生	（委員長、プログラム統括責任者、消化器内科分野）
木村　　行宏	（プログラム統括副責任者、腎臓内科分野責任者）
笠原　　千嗣	（血液内科分野）
杉山　　昭彦	（消化器内科分野）
吉田　　勉	（呼吸器分野責任者）
安田　　立	（救急分野責任者）
安田　　真智	（循環器内科分野責任者）
佐竹　　敦史	（循環器内科分野）
北川　　順一	（血液内科分野責任者）
山口　　公大	（感染症分野責任者）
香村　　彰宏	（脳神経内科分野責任者）
藤岡　　圭	（総合内科、膠原病・アレルギー分野責任者）
石黒　　崇	（臨床腫瘍・緩和ケア分野責任者）
林　　秀樹	（消化器内科分野責任者、肝臓分野）
岩田　　圭介	（消化器内科分野、胆膵分野、評価部会担当責任者）
渡部　　直樹	（CPC 開催関係責任者）
小鳥　　雄平	（専攻医代表　消化器内科）
伊藤　　幹也	（専攻医代表　脳神経内科）
坂井田　有哉	（専攻医代表　血液内科）